

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立北山中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月19日（火）

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

- | |
|---|
| ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。 |
| ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。 |
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

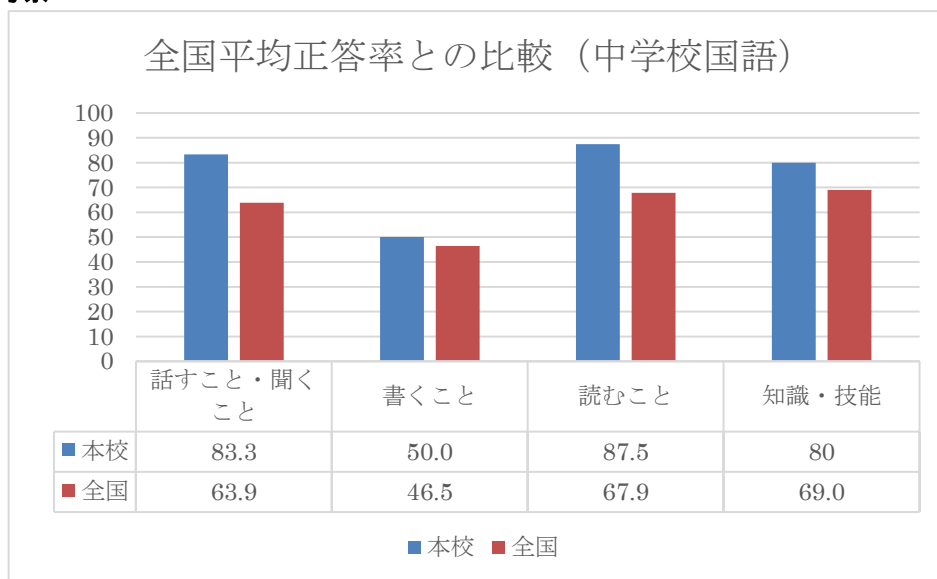
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語



(1) 結 果

すべての領域で、全国を上回る結果でした。特に「話すこと・聞くこと」「読むこと」は、大きく全国平均正答率を上回っています。また、無解答もなく、問題に取り組む姿勢もとても意欲的だったと考えられます。

(2) 成果と課題

今回の調査で、全領域で全国を上回りました。普段から行っている学習の成果が表れていると考えられます。音読や漢字、言葉の学習などの知識・技能の領域の学習は、国語科の学習の根幹をなす力のため、これからも重点的に取り組むべきものです。また、課題としては、「書くこと」に関する問題が挙げられます。この領域に関しては、全国の正答率を上回っているものの、低い結果がでています。問題の形式に合わせて、答えを記述する、ということを苦手としている生徒が多いのが現状です。知識そのものを答える問題は減少している傾向にありますので、授業の中でも、自分の考えを書いたり、推敲したりする機会をつくり、力を付けていくことが重要であると捉えます。

(3) 学力向上のための取り組み

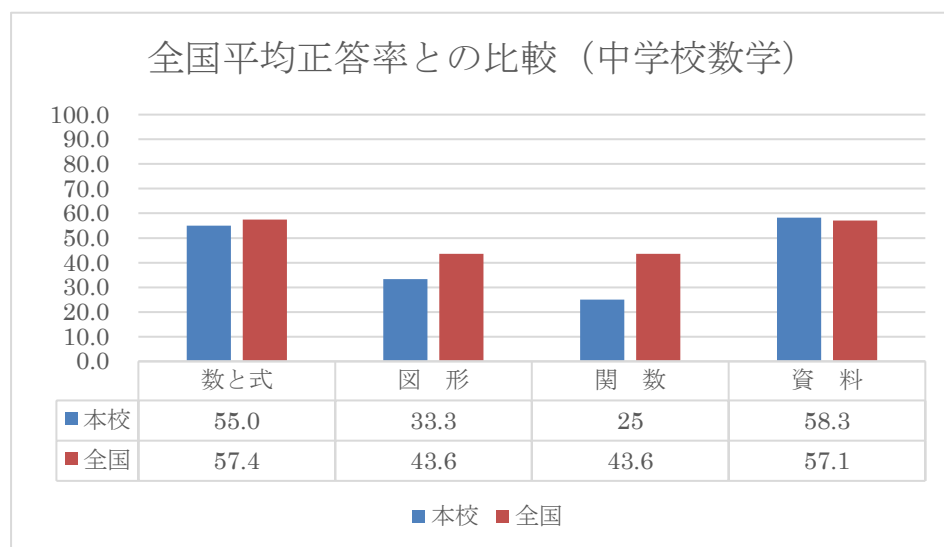
【学校では】

- 国語の語彙力の向上のためには豊かな語彙力が必要です。その語彙力獲得のために、授業の中で辞書を活用する時間を設け、ことわざや慣用句などの語句の学習にも力を入れていきます。
- 書く力を付けるために、教材ごとに自分の考えを文章にまとめて書く時間をとります。目的や意図に応じて、根拠を明確にして書くことに留意します。
- 正確に読み取るための学習として、週に一度の「言の葉タイム」で、読解力向上のためのドリル学習を行い、読み取るためのポイントを確認していきます。
習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます

【ご家庭では】

- 国語は継続的な学習が必要な教科です。毎日、少しずつでいいですので、新聞を読んで自分の考えをメモする、読書をする、など、言葉に接する機会を設けてみると思います。分からない言葉があったら自分で調べるのも有効です。すぐに実感できる力が付いていくわけではありませんが、毎日のこつこつの積み重ねが大事です。
- 様々なジャンルの本を読みましょう。語彙力も高まり、知識の幅も広がっていきます。

2 数学



(1) 結果

図形領域、関数領域において、全国平均を下回っています。無解答率については、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「A 数と式」「D データの活用」の領域については、ほぼ正答率が全国平均正答率と同等でした。また記述式の問題では、県の正答率を2.7ポイント上回っていました。「B 図形」の領域の、筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明したり、「C 関数」の領域の事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したりする学習したことを活用する問題に課題が見られました。説明不足による誤答が見られましたので、今後の授業において、既習事項を活用し説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、活用する力を付けていくことが重要であるととらえています。

(3) 学力向上のための取り組み

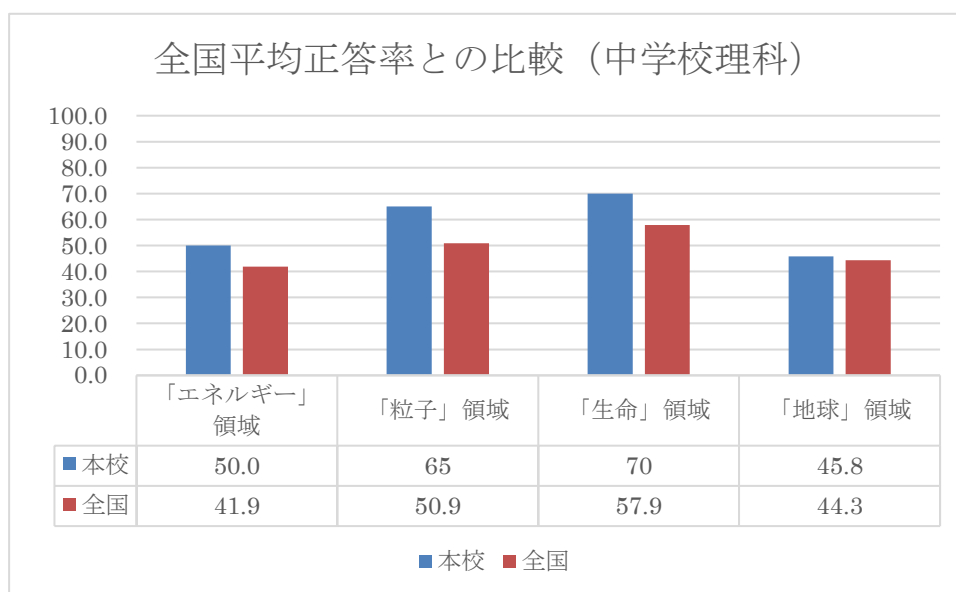
【学校では】

- 課題チェック、ノートチェック、プリント、ドリルなど日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見付け、補充指導に努め、学力の定着を図ります。
- 授業では、友達と学び合う活動を通して、数学的な見方・考え方を育成し、思考力・活用力を高めます。
- 課題を解決する際に、既習事項をもとに考察し、説明できるよう努めます。

【ご家庭では】

- 数学では、単元ごとに単元シートを渡し、授業の計画や学習内容のポイントなどを示しています。予習や復習に活用してほしいと思います。
- 数学は積み上げの教科です。まとめて長い時間の勉強をするより、毎日、短時間ずつ学習を続けていくと力がつきます。また、授業があった日に復習をすると、一度忘れても思い出すのが容易になります。学習習慣のリズムができると課題に取り組むのも楽になってきます。最後まであきらめずに解くことが大切です。解けた喜びを味わうと数学が楽しくなってきます。励ましの言葉をお願いします。

3 理科



(1) 結果

すべての領域において全国平均を上回っています。そのうち、「粒子」「生命」の領域で全国平均を大きく上回ったのに対し、「地球」の領域で全国平均と同等の結果でした。

また、無解答率を見ると、すべての問題で 0.0 % であり、全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

「粒子」の領域の、液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する「知識・技能」を問う設問や、「生命」の領域の、ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付けて理由を記述する「思考・判断・表現」を問う設問で、正答率 100% となるなど、学習内容の一定の理解はできていると思われます。

一方で、「地球」の領域の、岩石名からその成因や化石を含む可否について問う設問や、「エネルギー」の領域の、日常生活の中で物質が静電気を帯びる現象を問う「知識・技能」に関する設問に関し課題が見られたため、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る必要があります。また「地球」の領域の、複数の地点の露頭スケッチからその地域の地層の傾きを問う設問や、提示された雲の様子と地上での気象データから提示された考察が適切かを問う「思考・判断・表現」に関する問題でも課題が見られました。日々の学習活動の中で、自然現象や科学事象に対し、原因を考察したり、説明したり正しく表現したりする活動を継続して取り入れ、積み重ねていくことが重要であると考えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 小テストや単元テスト等を活用し、より一層の基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
- 理科の学習で知り得た科学事象や自然現象を、日常生活と関連付ける指導を目指します。
- 実験などで得られたデータや表、グラフなどから傾向を捉えて考察し、理由や根拠を示して説明したり、記述したりできるよう努めます。

【ご家庭では】

- 宿題プリントやテストなどに目を通していただき、励ましや称賛の言葉をお願いします。
- 理科的なこと（科学や自然現象）に興味をもったり、疑問に感じたりしたときに、質問していただくがあると思います。ぜひ一緒に考えたり、調べたりしてください。
- 科学や自然についての TV 放映やインターネット動画視聴も、興味関心を高めることにつながります。家族で視聴の機会をつくることもご一考ください。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	50.0%	79.9%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	25.0%	37.0%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	50.0%	56.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	75.0%	36.0%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	25.0%	21.4%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	100.0%	73.5%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	75.0%	82.6%

朝食・起床・就寝については全国平均を下回っていますが、「どちらかといえはできている」まで含めると100%で全国平均を上回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていけることはとても重要です。今後も家庭と学校で協力して、習慣化する必要があります。

挑戦心や規範意識の項目については、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果が出ています。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	0.0%	15.4%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	25.0%	9.9%
「2時間以上、3時間より少ない」	0.0%	25.3%
「1時間以上、2時間より少ない」	75.0%	34.3%
「30分以上、1時間より少ない」	0.0%	17.0%
「30分より少ない」	0.0%	8.5%
「全くしない」	0.0%	4.9%

「家で自分で計画を立てて勉強をしている」について、「ときどきしている」と答えた生徒が100%で学習計画については十分ではないようです。また、毎日の家庭学習については習慣化しているようです。今後、家庭学習の充実を目指し、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行っていくことについて指導していき、自主的に学習できる力、学習をマネジメントできる力を育てていきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- ノルティースコラライトに、自主学習をする内容を記入させ、学習計画を立てさせます。自分に必要な学習内容を考えて行う力を付けていきます。
- 思考力・判断力・表現力を向上させるために、朝の会、ブロック集会、委員会活動等の様々な場面でスピーチ活動を行っています。今後も継続して行っていきます。
- 毎週「言の葉タイム」を実施し、読み解く力をスキルアップさせます。

【ご家庭では】

- 「学習の手引き」を配布しています。各教科の授業への取り組み方や家庭学習のポイント等を掲載しています。参考にされて、毎日家庭学習に取り組むお子さんへのアドバイスをお願いします。
- 規則正しい生活習慣や家族との関わり、地域の方との交流を通して、子どもたちの学習に向かう基盤となる人間性が育まれます。1つ成長したら、みんなで喜び、励ましたり褒めたりしてあげてください。